

Jwima 通信
Japan Writing Instruments
Manufacturers Association

日本筆記具工業会

〒116-0013
東京都荒川区西日暮里2-30-6
TEL03-3891-6161 FAX03-3892-9692
発行：日本筆記具工業会 調査研究広報委員会
URL <http://www.jwima.org>

日本筆記具のブランド力、新製品提案力、 品質力をさらに強固に

2012年の年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年5月の日本筆記具工業会総会で第六代会長に選出されて初めての新年を迎えることとなり、身の引き締まる思いでございます。

当工業会は、日本の筆記具業界のさらなる発展と世界レベルでの地位向上を目指して21世紀の起点となる2001年に会員各社のご尽力のもとに設立されました。そして昨年10月には設立10周年の節目を迎えることが出来ました。これもひとえに会員の皆様方が各種委員会、部会への積極的なご参画をいただいた賜物と感謝申し上げます。

10年前に初代会長の大任をおおせつかった際に、筆記具工業会としての使命は3つほどあるのではないかと申し上げた記憶があります。

- ① 高い教育レベルを持つ国は、必ず高い水準の筆記具がある。
レベルの高い筆記具を作り続けることは、知的生産性の向上に寄与する立場にある。
- ② 筆記具は業界生産量のほぼ半分が輸出である。
外貨を獲得するという意味でも国家的戦略に寄与している。
- ③ 世界の中で付加価値のある新製品を作り続けているのは日本くらいである。今後もグローバル市場に付加価値の創造をしていかなければならない。

10年たった今日においてもこの3つの使命はさほど大きな変化はないのではないのでしょうか。時代がどのように変わっても、新製品を提案して、良い製品をしっかりと作り続けることは全世界の消費者に認められることであると思います。

また昨今、筆記具に携わる仕事をしている私たちにとってたいへんうれしい傾向が見られています。テレビ番組や新聞で文具の特集が多数取り上げられたり、筆記具や事務用品に特化した雑

誌の出版が目立っています。また、会員各社のホームページへのアクセス数も年々増加しているようです。これらは今、筆記具がお客様からたいへん注目をしていた



だいているということが背景にあると思います。一方流通においても提案型のあたらしい店舗が増えています。ターミナルの駅ビルや新設の商店街モールには必ずといってよいほど筆記具、事務用品、生活雑貨を取り扱う店舗が出店されています。また地方都市においても老舗の文具店様が広い売り場面積の新店舗を作られています。このように我々の製品とお客様との接点である「売場」をたいへん華やかにしていただいております。我々メーカーは今後とも、流通の方々が作っていただいた「売場」により良いコンテンツを作り、流通の皆様にお答えしていかなければなりません。

筆記具工業会の会員各社に於かれましては、今まで築いてきた日本筆記具のブランド力、新製品提案力、しっかりとした品質力をさらに強固にするためにも会員各社の活発かつ質の高い情報交換の場としての当工業会を活性化させていただきたく存じます。

今年が、文具業界関係各位ならびに会員各社にとりまして一層の飛躍の一年となりますことを衷心よりお祈り申し上げますと共に、本年も日本筆記具工業会にさらなるご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。新春のご挨拶とさせていただきます。

日本筆記具工業会 会長 数原英一郎

平成23年度 年末講演会 ゴルフプロデューサー 戸張 捷 先生

2011.12.1 上野精養軒にて 【講演録】

JWIMA 恒例の年末講演会を 12 月 1 日上野精養軒にて開催いたしました。今回は第 10 回目ということでゴルフトーナメントプロデューサーの戸張 捷（とばり しょう）氏を講師にお招きしました。プロゴルフ界にまつわるたいへん興味深いお話をいただきましたので詳しくご紹介いたします。

先日、三井住友 VISA 太平洋マスターズの決勝ラウンド最終組で、松山秀樹と谷口徹が同じ-11 で競り合って、最終 18H Par 5 で先に谷口が 2nd ショットを 5 番ウッドでツーオンさせ、松山にプレッシャーを与えたが、松山は残り 180 ヤードの 2nd ショットを 8 番アイアンでベタピンに着け、イーグルで上がって優勝した。

松山市出身の松山くん、石川遼と同じ年で現在東北福祉大学 2 年のアマチュアである。体幹の軸が太く、飛んで行く球が重い、いわゆる風に強い球である。石川遼は、スイングの切れがよく、球は 300 ヤードくらい飛ばすが、重い球ではない。松山秀樹と石川遼では、ティーショットはフォローだと同じくらいだと思うが、アゲンストだと 20 ヤードくらいは松山のほうが先に行くだろう。

石川遼は 15 歳で優勝して現在これだけの注目を浴びている。それで最近、彼女がいるという風評が飛び交うようになり、石川サイドもこれを消すためにお母さんの名前でプレスに「遼には付き合っている女性がいます。今は普通の方なので名前は言えませんが、皆さんにはそれをお知らせしておいて、そのうちご紹介する時が来るでしょう。」と出した。

これを親父の名前やマネジメント関係の名前で出したら、すぐマスコミから「どこの誰?」、「相手は何?」と、わーっと大騒ぎになるんですけどお母さんの名前で出したというのが彼等もなかなかたいしたものでありました。お母さんの名前でそういうメッセージが出たのでプレスもそのあと行きにこなかったようです。

最近あまり教えていないようですが、これまで石川遼にゴルフを教えてきたのは彼のお父さんです。お父さん自身のスコアは、90 切るか切れないかというところで、「ゴルフは教える側の能力ではなくて、教わる側に能力さえあれば誰でもうまくなる。」ということです。レッスンプロにならって「上手くなんねえんだよー」って言うてる人は、もしかすると本人に才能がないということかもしれません。

横峯の親父もそこそこは上手かったけどもそんなにうまくはなかった。訳わからず椅子に座ってドライバーを振り回せと言ったり、練習場で 30 ヤード先に竹竿を立ててドライバーで当てるように打てとか、そういうことを教えて行って横峯をあそこまで仕上げてしまった。

コースに出ている間は横で教えてくれる人間はいない。全部自分で処理をしなければならない。ところが最近インストラクターに頼る選手が多すぎる。だからみんな同じようなスイングで、同じような球筋で、同じようなゴルフをするようになってしまった。だから最近あまり面白くなくなってきたとニクラウスも言っており、ティーチングプロの弊害が起きているのです。教わることに慣れてしまうと自分で治せなくなってしまふ。そういう選手はトップを目指していてもカリスマ性を持った選手になれない。結局自分で補修能力、調整能力がない選手が多くなってしまっている。

石川はいきなり 15 歳で優勝したという運の強さもあります。15 歳で優勝したトーナメントも最初は一度予選会で落ちこちていたんですが、その時たまたま大会に出席する選手が出られなくなって、誰を入れるかっていう話になったとき、大会の事務局長が「あのチャレンジしていた中学生の石川君って子がいいんじゃないの」って言って、全委員一致で主催者側の推薦で出ること



なったんです。それで、選ばれたその理由っていうのが、彼の礼儀正しさだったのです。彼はゴルフ場に来た時にきちんと挨拶をし、クラブハウスの中でも誰にでもきちんと挨拶をした、それでそのゴルフ場の従業員も含め全員が石川に好感を持ちファンになった。

その石川がまた、「予選に落ちたのに今回呼んでいただいて…」って、またきちんと挨拶する。それで最終的に最終ホールバンカーショットを直接カップインして、劇的な優勝をしてしまった。偶然ではなく必然なんですけど、運を引き入れる何かを持っている。だから、そういうものがみんなを引き付ける魅力になっているんですね。

女子の方は宮里藍が出てきたころ、樋口久子が会長をやっていて非常によくプロを指導していた。樋口さんは選手のサインが欲しいというファンに並んでもらい、そこへ選手を連れてきてサインをするようにした。宮里も200人くらい並んでる人に順番にサインをし、そのあと上がってくる選手もそこへ加わりサインをするようになった。そういうことを繰り返しているうちに女子のトーナメントはいよいよ伝わり、ファンが続けて足を運んでくれるようになった。

男子はその頃、上がってきてサインくださいって言われても、ダメダメ練習があるからって取り合わない。一番すごかったのは、日本シリーズ東京よみうりの18番の横で上がってきた選手にサインを下さって普通のおばさんがKプロに色紙を出したら、嫌な顔して「サインすんのお、これから表彰式なんだけど」って言いながら殴り書きみたいにサインして渡したら、さすがにそのおばさんも怒って帰りにゴミ箱に色紙を叩き込んで帰ってたという逸話があったくらいです。

その頃の男子ツアーの視聴率は、ジャンボがいて青木がいて中島がいたときは10%くらいあって、女子は2~3%くらいだった。しかしながら、女子はファンサービスで、有名選手が出てきてサインもしてくれる。それで視聴率も完全に男子とクロスし、

ギャラリーの数も逆転してしまったわけです。そして男子もこりゃまずいと言って、湯原とか倉本あたりがサインをしようと言っているんなプロもサインするようになった。

そのころアメリカではタイガーウッズが一世を風靡して、男子ゴルフもまた面白いなという風になってきて、そこへ石川が登場してきた。石川はさっき言ったように感じがいい。何よりいいのは世の中の親がみんな自分の子供と比較して「いい感じだね。言葉使いもしっかりして。」と感心し、しかも強い。彼が今男子ゴルフの人気を引っ張ってくれている。

それで新聞も彼が出れば記事になる。予選落ちしても記事になる、ということが起こっており、相当ストレスが溜まっていたと思う。

そこへ今回、松山が出てきた。これでライバルができた。いい意味で競り合う相手がいないとダメで、そういう意味でも松山には早くプロになってくれるといいなと思っている。

この間、石川選手から頼まれて「リスペクト」というTV東京の番組に出たんですが、その番組のプロデューサーから何か石川選手にリクエストはありますかと聞かれて、石川選手に内緒でパーシモンヘッドのドライバー、しかも43インチのスチールシャフトのものを用意して、これで打たしてやろうと思いついた。昔のクラブは飛ばなかったというけれど、同じティーから打って今のチタンヘッドと昔のパーシモンとでどれくらい差が出るものか。そこで、石川選手に「パーシモンヘッドって知ってる？」って聞いたところ、「もちろんです」と返事。「じゃあ、パーシモンヘッドのスチールシャフトで、糸巻きボールを打ったことある？」って聞いたら、「ない」とのこと。それで、クラブを渡してみると「ツヤがあってきれいですね。」「フェイスに入ってるこれは何ですか？」と聞くから、これはファイバーと言って紙を固めて木が減らないようにネジで装着し、これを取り換えてヘッドを長持ちさせたんだよと説明。残念ながら皮のグリップまでは用意できなかった。



そこで、石川選手に「これで打ってよ」って言ったら、「打っていいんですか」って目をキラキラさせて、「何かアドバイスがあれば教えてください」っていうから、石川のヘッドスピードがおそらく50m/sくらいだから、「それだとスティフ(S)のクラブはヘッドが返り切らないから45m/sくらいに抑えた方がいいよ。」って言い、それと「ティーアップは低めの方がいいよ」とアドバイスしたら、いきなり低い弾道ですごい球を打って皆を驚かせた。おそらく280ヤードくらいは行ったんじゃないでしょうか。

そこで次に今使っているヨネックスのドライバーでスリクソンのボールを打ってもらうことにした。これまでこういう比較をやったことがないし、これで昔のパーシモンと今のチタンヘッドとの違いが判る。

そして石川選手が今のドライバーで打つと、ボールは高く先ほどの3倍くらい上がり、弾道も全然違って320何ヤードも飛んでいた。40ヤードあまりも差が出ていました。

「昔の人はすごいですね、こういうクラブですとやっていたんですね。」それで次もウェッジでグリーンに乗せるように打ってもらった。今のボールはスピニングが効いて止まるけど、糸巻きボールは大きく戻る。ゴルフもそれだけ変わっているという話を石川選手にした。昔のニクラウスやパーマーもそうだし、ベンホーガンやジャンボ尾崎にしてもみんなこのクラブとこのボールでスコアを出して、賞金王を10回以上獲ったりしてたんだよって話をした。

いずれにしても石川遼と松山秀樹が、今後男子ゴルフを引っ張ってってくれるだろうと思います。

女子の方は、韓国勢が強く、中でもアンソングジュの上手さはすごい。叩くと280ヤードくらい平気で飛んでっちゃうし、体がゴムみたいになっていて非常に柔らかい。だからインパクトしてフォロースルーがこころ辺に来るまで右足のかかたが上がらない。柔らかく回転して打つから、フェイスの向きがほとんど変わらないまま打てる。シンジエも同じようなタイプですね。

韓国が強い理由は、国を挙げての英才教育にあります。韓国各地に今はナショナルチームを養成するアカデミーがいっぱいある。アカデミーにいい選手がいるとすぐナショナルチームに放り込んで国がお金を出して育てる。そこそこ強くなると家族でアメリカへ渡り、学校へ通う場合もあるけど、すぐプロになって活躍を始める。アメリカのランキングでもベスト50に韓国の選手が10何人入っており、日本でも同様である。これはひとえに英才教育で、ナショナルチームに入れて育てたらどんどん輸出する。国策に近いのではないのでしょうか。

2016年ゴルフがオリンピックの正式種目になる。そして、ここで中国が本気でナショナルチームを作り始めた。中国というところはある種「何でもアリ」のところがあるから、この前も昆明という世界遺産の真ん中にゴルフ場を作った。ところが案の定開場前に政府からNOと言ってきた。そして3~4ヶ月したらまあいいだろうと言ってきた。何がその間に行われたか分からないが、そういうコースが今とんとんできてきている。

北京に体育協会があり、その中にゴルフ協会がある。プロの方も香港にあり、アジアPGAの本拠を中国がおさえている。またヨーロッパツアーの方も中国が取り込んで、中国でやるトーナメントもヨーロッパの賞金ランキングに加わるようにした。そして、ナショナルチームを作って2016年のオリンピックでメダルを取ろうと言っている。

今、日本はそこまでやれていない。韓国がそれをやり、中国もそれをやり、またタイもそれをやり始めた。日本もカレッジやアカデミーを作りジュニアを育てて行かないと、本当に日本だけ遅れ、ゴルフも違ったものになってしまう気がします。

トーナメントの運営はアメリカがお手本になっており、多くのボランティアや地域社会が一体となってイベントを組んで行く。地域社会を巻き込まないと本当のいいイベントにはならない。そういうトーナメントをこれからも作っていきたいと思っていますのでよろしくお願いします。

(了)



鉛筆の森をつくろう！

日本鉛筆工業協同組合 100周年記念事業

大正元年（1912年）当時の鉛筆製造業者が集まり、鉛筆の改良発展を目的に「東京鉛筆製造組合」（日本鉛筆工業協同組合の前身）を設立した。そしてそれが今年ちょうど100周年を迎える。

明治5年、政府は「学制」を公布し、子供たちが身分や貧富、男女の別なく平等に教育が受けられるよう学校教育体系の施行を行った。

そして明治6年、欧州の先進文明や産業を学ぶため政府の特使として伝習生がウィーン博覧会に派遣され、明治7年に初めて鉛筆の製造法が国内に伝えられた。

その後、国内でも鉛筆が製造されるようになったが、明治20年頃までは圧倒的に輸入鉛筆が多く流通していた。

義務教育の普及とともに鉛筆の需要は急速に高まり、東京を中心に国内の鉛筆メーカーも増えていった。

鉛筆製造業は、東京都の地場産業にも指定されている業種で、荒川区に古くから発展し今でも一番多く会社が残っている。

鉛筆の軸に用いる木は、明治の頃から北米産のイースタン・レッドシダーやインセンスシダーが用いられてきた。大正～昭和20年頃には輸入材が手に入りやすくなったこともあり、北海道産のアララギやヤマハン、シナなども用いられたが、戦後またインセンスシダーに戻った。

インセンスシダーはヒノキ科オニヒバ属の木で、成長が早く、木が柔らかくて木目もきれいにそろっているため、鉛筆に最適の木として古くから使われてきた。柔らかいため削りやすく鉛筆には最適であるが、建築用の構造材には適さず、そのため日本ではあまり知られていない。（日本には自生していない。）

鉛筆工場にはよく小学生が社会科見学で訪れる。鉛筆はどうやって作っているのか、工場見学をしても軸になる元の木はなかなかイメージできなかった。

そこで、平成24年（2012年）、日本鉛筆工業協同組合は創立100周年を記念し、地元と学校教育への感謝の意を込め、荒川区の小中学校に、鉛筆の木（インセンスシダー）の苗木を寄贈、植樹し、「鉛筆の（木の）森」をつくることとした。

【事業の概要】

1. アメリカよりインセンスシダーの苗木を100本輸入。（検疫があるため、根っこの土は完全に洗い落とさなければならない。）
2. 苗木を植樹用ポッドに植え替え、国内造園業者にておおよそ3ヶ月間養生する。

▼苗木イメージ写真



3. 荒川区へ苗木を寄贈し、区内の小中学校に植樹を行う。

＜植樹イベント＞

H24.4.14（土）10:30～

荒川区立第三日暮里小学校にて（調整中）
会場校生徒・教員、区長、教育長も出席

＜植樹実施校＞

区内小学校 11校、区内中学校 5校

※植樹の場所と本数は、荒川区に一任。



◀明治初期に植えられたインセンスシダー（妙義山）
鉛筆組合青年部会で視察
H23.10月

平成23年 委員会・部会活動 (2011.11.1~12.31)

<調査研究・広報 関係>

11. 22 調査研究・広報委員会(平成23年度第4回)
 ・お役立ち情報「鉛筆編」について
 ・その他

<流通 関係>

12. 13 流通委員会(平成23年度第1回)
 ・H23 文具流通諸問題について(意見交換)
 ・お客様相談窓口連絡会活動状況報告
 ・その他
12. 21 お客様相談窓口連絡会(平成23年度第4回)
 ・各社のお客様対応事例について
 ・お役立ち情報(マキノグペン編)の見直しについて
 ・その他

<技術国際 関係>

11. 15 製品安全小委員会(平成23年度第3回)
 ・安全関連情報について(米国 CPSIA 関連)
 ・EWIMA 技術委員会(10月ミュンヘン会議)報告
 ・その他
12. 12 事務用修正液 JIS 改正原案作成委員会(第2回本委員会)
 ・第1回本委員会による修正内容の報告
 ・改正案の審議
 ・今後の予定について

以上

..... お知らせ

■ JIS S 6055 (事務用修正液) の改正作業が間もなく終了します。

昨年4月より改正原案作成委員会を立ち上げて、本委員会2回、分科会3回開催し審議を進めてまいりました。それも本年2月で終了予定で、特に問題なければ、秋までには改正版が発行される予定です。

【主な改正点】

- ① 5. 品質において、「有害物質」の箇条を設け、他の筆記具関係 JIS に規定されている有害重金属8元素の規制値を明確にする。また、その試験方法も規定する。
- ② 6. 材料及び構造において、事務用修正液に使用する溶剤について、使用者の健康安全上使用してはならないものについて規制する。
- ③ 8. 検査方法においては、JIS Z 8301 に従い「形式検査」と「受渡検査」に分けて規定する。

■ ドイツの筆記具統計 2010 発行

昨年12月にドイツの筆記具統計2010を発行いたしました。ドイツにあるEWIMA(欧州筆記具工業会)ならびにドイツ鉛筆協会の事務局とは毎年筆記具統計データの交換を行っており、JWIMAで翻訳整理を行っています。会員各位には年末に送付済み。

2010年ドイツの筆記具は、リーマンショック後2008、2009年と2年続けて前年割れしていたが、生産・輸出・輸入とも大きく回復した。(万年筆・シャープペンシルは、少し蚊帳の外。)
 資料は、まだ少し在庫に余裕がありますので、希望される方は事務局へお申し出ください。

■ 平成24年度 第11回通常総会

今年度の第11回通常総会の日程が決まりましたのでお知らせします。

平成24年5月16日(水) 17:00~
 上野精養軒にて
 よろしくご予定ください。